

I 学校経営

第3分科会 評価・改善

研究課題 教育改革を進める学校づくりと評価における 校長の在り方

分科会の趣旨

校長は、変化する時代の潮流や近未来的な課題と教育の役割を踏まえ、経営方針を明確にして、教育活動を展開し、絶えずその評価と改善を進めていかなければならない。

知識基盤社会においては、学びのイノベーションを可能とする教育が求められる。学校は「生きる力」の育成を一層重視し、次代を担う子どもたちが変化や課題に対応する力や自立する力を身に付け、人間性豊かな社会の形成者としてたくましく成長していくように、新たな知を拓く教育の創造に努めていく必要がある。校長は、学校経営力を磨き、学校改善に向けた強い意志と使命感をもち、家庭や地域との連携を大切にして信頼関係を構築しながら、学校経営の改革に取り組んでいくことが肝要である。

近年、学校評価においては自己評価とともに学校関係者評価が実施され、さらに第三者評価の規定も明示された。学校は経営や教育活動の自律的・継続的な改善に努め、評価をより実効性のあるものとし、説明責任を果たさなければならない。そして、連携・参画の在り方について家庭や地域・関係機関と論議し、共通理解を形成していくことが重要である。また、人事評価においては、校長は評価者として教職員への適切な指導と対話を重ね、各自の意識変革や能力開発を促し、個々の人事評価が学校の組織全体の成長発展につながるように取り組むことが大切である。

本分科会では、教育を巡る状況と子どもの未来をしっかりと見据えた学校経営の在り方について考え、学校評価と人事評価の二つをツールとした組織マネジメントの改善等を通して、学校における教育の改革を着実に推し進めていくための具体的方策を明らかにする。

リーダーシップの視点

(1) 新たな知を拓く資質・能力を育成する学校経営改革の推進

変化の激しい時代にあって、子どもたちが夢を持ち、社会的な自立を果たしていくために、「生きる力」の育成を基盤とし、新たな知を拓き、人間性豊かな日本人の育成を図ることが求められている。そのためには、子どもたちがしなやかな知性や豊かな創造性を身に付け、互いの個性や絆を大切にできるようになる教育が重要である。

校長は新たな知を拓く資質・能力の育成を学校経営の柱に据え、学校の教育活動全体の見直しと教員の資質・能力の向上のために不断の努力を払う必要がある。

このような視点から、子どもの将来を見据え新たな知を拓く資質・能力を育成する教育を創造するために学校経営改革を推進する上での校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 学校づくり・人づくりを確かにする学校評価・人事評価の工夫

学校評価は、学校を取り巻く環境を見定め、展望をもった目標を設定し、実践を吟味し、経営改善に活かしていくものである。学校関係者評価への保護者・地域の参画を通して、開かれた学校としての信頼を得ることもまた重要である。

人事評価は教職員が各々の経験に応じて、その専門性や指導力を高め、能力を発揮できるように活用しなければならない。また、教職員の自己目標や評価結果を効果的に活用した学校経営の推進も必要となってくる。

このような視点から、学校評価や人事評価を学校経営に効果的に活用し、学校づくり・人づくりを推進するための校長の果たすべき役割と指導性を究明する。